

開館
25周年
記念

大観とその時代 光ミュージアム名品展

2022年7月9日(土)〜9月11日(日)



小杉末醒(放菴)《たいざん木》1919年

開館時間 午前9時30分〜午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 毎週月曜日(7月18日は開館し、7月19日を休館)
入館料 一般730(650)円、大学生510(460)円、高校生以下は無料

横山大観《蓬萊山》1939年頃



* (一)内は20名以上の団体割引料金
* 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、日光市公共施設使用料免除カードの交付を受けた方とそ付き添いの方1名は無料
* 第3日曜日(家庭の日)(7月17日、8月21日)は、大学生は無料
* 7月24日(親子の日)は高校生以下のお子様お一人につき保護者様2名まで、全員入館無料
* 日光市民は一般300円、大学生200円、高校生以下無料
* 新型コロナウイルスの感染状況により、会期等が変更になる可能性があります。お出かけ前に、当館ホームページをご確認ください。

主催 公益財団法人小杉放菴記念日光美術館
日光市/日光市教育委員会
特別協力 一般財団法人光ミュージアム
企画協力 株式会社アートワン

開館25周年記念 大観とその時代 光ミュージアム名品展

本展は、1999年に岐阜県高山市に開館した光ミュージアムのコレクションより、近代日本画の名品の数々をご紹介します。関東では初の展覧会となります。

近代以降の日本画を牽引した日本美術院は、明治という時代の変革期に、岡倉天心の理念のもと新しい日本画の創造を目指して活動しました。初期の構成員には、橋本雅邦、横山大観、下村観山、菱田春草らが名を連ね、西洋画の技法も取り入れながら新しい時代にふさわしい日本画を創っていきました。その後、天心を失った美術院の再興に寄与した小杉末醒(のちの放菴)は「片ぼかし」の手法を日本画に取り入れ、小林古径、前田青邨らに影響を与えます。一方、日本美術院の院展と相反する展覧会として存在したのが、文部省美術展覧会(文展)でした。後の帝国美術院展覧会(帝展)時代も含め、官展と称されたこれらの展覧会でもまた、川合玉堂、鏑木清方、上村松園など、風景画や美人画を代表する多くの画家が活躍していきました。

光ミュージアムは、「光」をテーマにインカやエジプト文明、日本の縄文土器、江戸時代の浮世絵や刀剣、そして近現代の日本画や洋画など多種多様な資料を収蔵する総合博物館として地域社会に貢献しています。本展では、その膨大なコレクションの中から、とくに当館の館名を飾っている小杉放菴と、放菴と深い交流のあった横山大観にスポットをあて、彼らが生きた時代の院展や官展で活躍した画家たちの作品をご紹介します。

●会期中の催し物

ゲスト・ギャラリートーク

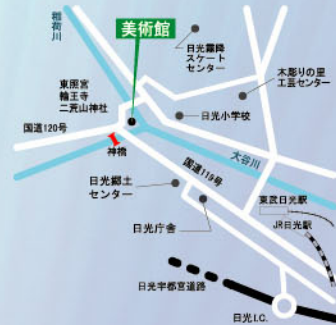
講師：今泉たまみ氏(光ミュージアム主任学芸員)
7月9日[土] 午前11時より(1時間程度)
※入館券をお求めのうえ、美術館受付前にお集まりください。

担当学芸員によるギャラリートーク

8月7日[日]、9月10日[土]
各時間=午前11時〜(1時間程度)

●交通案内

- ◎電車=東武日光駅、JR日光駅から東武バス「世界遺産めぐりバス」もしくは奥細尾、清滝、中禅寺温泉、湯元温泉方面行バス5分。「神橋」停留所より徒歩3分。
- ◎車=日光宇都宮道路・日光インターから約2km
- ◎駐車場=併設の市営駐車場をご利用ください。美術館受付で駐車券を提示していただくと、1時間まで無料となります。休日、美術館周辺はたいへん混み合う場合がございますので、時間には余裕をもってお越しください。



●次回展予告

開館25周年記念 華厳社 一下野の画人たち
2022年9月17日[土]〜11月20日[日]

開館25周年記念 大観とその時代 光ミュージアム名品展

I 大観と放菴

日本美術院の再興以来、長年の親友であり続けた横山大観・小杉放菴。光ミュージアムのコレクションにはこの二人の作品も多くあり、とくに大観のコレクションは、質量ともに素晴らしいものです。本章では、その交友にスポットを当てます。

II 日本美術院の周辺

岡倉天心を中心に1898(明治31)年に創立、天心没後の1914(大正3)年に横山大観・下村観山、そして小杉放菴らによって再興された日本美術院は、翌年から通称「院展」と呼ばれる、現在も続く公募展覧会を開催しました。光ミュージアムのコレクションは、院展から輩出された小林古径、前田青邨、安田靉彦といった次世代の画家たちの作品も充実しています。

III 官展の画家たち

新しい日本画を創造しようとしていた院展に対して、文展・帝展は保守的だったと思われがちですが、叙情的な風景画で国民画家と称された川合玉堂や、関西画壇の巨匠・竹内栖鳳、美人画で名を馳せた鏑木清方など、官展からは国民から絶大な人気を誇る画家が数多く生まれました。最終章では、そんな大観のライバルたちの活躍をご紹介します。



山口蓬春《溪瀑》昭和初期
©公益財団法人 JR 東海生涯学習財団



磯田長秋《夏日》1935年



横山大観《秋の月》1900年



鏑木清方《権八小紫》1923年頃
©Akio Nemoto 2022/JAA2200058



小杉放庵《山居》1928-1933年頃

珠玉の日本画コレクション、関東初公開！



菱田春草《湖辺》1902年



伊東深水《晴日》1941-1942年



横山大観《不二堂峰》1936年頃



川合玉堂《湖村夕照》1910年



下村観山《武陵桃源》大正期

※作品はすべて光ミュージアム蔵